

本号から A3 見開きとなります。(印刷費節減のため)

2025年10月 1日

退職教職員協議会双葉支部会員のみなさま

福島県退職教職員協議会

双葉支部 事務局

退教協双葉支部「退教協ニュースNo.418号」 の送付にあたって

ようやく猛暑がやわらぎ、朝晩には肌寒さすら感じる頃となりました。今年も秋は短く、冬の到来が早いという予報も出されています。目まぐるしく変わる季節の変化の中、くれぐれも体調を崩すことなくお過ごしください。

トランプ関税で振り回されている世界各国ですが、日本の自動車にかかわる関税はなんとか15%に落ち着きました。しかし、5500億ドル（日本円で約80兆円）という多額の投資を約束させられました。そもそも以前は2.5%だった自動車関税が27.5%に引き上げられてからの15%です。納得は当然できません。

その交渉にあたった石破内閣ですが、関税交渉が一段落したからということで石破総理は辞職を表明しました。総裁選挙に突入した自民党ですが、5名の立候補者は党内での支持を獲得するために必死です。米や燃料費などのさまざまな物価高などに苦しむ国民には目を向けてはいないように思えます。少数与党となった自民・公明ですが、過半数いるはずの野党が一つにまとめられていない以上、自民党総裁選後の首相指名選挙で与野党逆転ということは考えられません。政策ごとに、野党の立場でしっかりと意見を通していくことが求められます。そのためにも、さまざまな機会に私たち一人一人の声を届けていきましょう。

町村	学校	児童生徒数	2011年	%	町村	学校	児童生徒数	2011年	%	町村	学校	児童生徒数	2011年	%			
浪江	創成小	60	86	1762	4.9	大熊	学び舎ゆめの森	41	54	1116	4.8	檜葉	小	174	244	683	35.7
	創成中	26						13						中			
葛尾	小	15	21	112	18.8	富岡	小	77	99	1477	6.7	広野	小	124	239	534	44.8
	中	6						22						中			
双葉	南小	8	30	550	5.5	川内	川内学園	52	71	163	43.6	844 6397 13.2					
	北小	8						19					県立	ふたば未来	178	*	*
	中	14															

上の表は、今年度の双葉郡の子どもたちの数です。この状況については、5名の候補者は言及していません。



広野町と川内村の一部では医療費無料の措置がすでに終了されていますが、次年度には楡葉町が終了となります。

3年ほど前に、「福島原発事故被害から健康と暮らし（くらし）を守る会」が発足し、医療保険料・医療費の減免措置の継続と健康手帳の交付を求めてきました。署名を集め関係省庁に届け、他の団体とともに政府交渉を行ってきました。この会の賛同者は双葉郡をはじめ全国各地にいます。こうして、私たちが気づかないところで、私たちの生活を支えてくれている団体は数多くあります。こうした団体やその活動についても機会があれば紹介していきたいと思います。

具体的な形で支援や保障をしてくれる団体もあります。教職員に特化したものとしては、福島県退職教職員互助会、教職員共済、弘済会があります。ご自身の契約内容等を確認して、何かあった場合には忘れずに請求することが大事です。以下がそれぞれの連絡先です。困ったことがあったらお電話を。

福島県退職教職員互助会 024-555-0231

教職員共済 024-523-3011

弘済会 024-522-6522

**原稿を
お待ちして
います**



いよいよ現行のストックがなくなってきました。この会報は、会員の方からの原稿で成り立っております。近況報告、または昔の思い出、さらには現職時代の写真など、提供をよろしくお願いします。短歌や俳句なども大歓迎です。メモ的なものでもどうぞ。

○ 住所等の変更及び会報の原稿は、下記の連絡先までお願いいたします。

○ 連絡先 （事務局長）柴口正武 宅

〒976-0036 相馬市馬場野字寺内175-5

※ 電話は 090-2604-8941

※ ファックスは 024-522-7751

（弘済会福島支部／柴口勤務先）

※ 電子メールは shibaguchi0211@gmail.com



2025年10月 1日

第418号

退教協 ニュース

音楽科指導の思い出

いわき市（大熊町）久保田亮次

小高中4年目～次年度は双葉郡へと。昭和54年度末人事異動（全16クラスの学校へ）。ところが、音楽の女性のY先生が石神中へ。代わりに入ってきたのは社会科。

星校長、菅野教頭、音楽科主任のO先生の苦悩。三者で話し合った結果、「この難局を乗り切るには、久保田以外にない」と。

出勤、直ちに校長室へ（数日）。ある日、帰宅時、O先生に同乗して、当時はやったインベーダーゲームをやりつつ、O先生「先生、助けてくれ」と。初年度は同学年。「1の1～4組まで週1時間。先生なりにどうやってもよい。あとの1時間は私が指導する」と。そして、引き受け、「やるっきゃない」と。部活（サッカー）に出ていく前、3階の音楽室でピアノを弾いていたが、それを見られていたらしい。



私のコーラス好きは、昭和25年（1950年）にさかのぼる。竜田中3年、当時の先生方はすさんだ世に明るさをとの熱意で、南双（久之浜町・広野町・木戸村・竜田村）小・中合同学芸会〔（施）久之浜小講堂〕 竜田中、混成三部合唱「故郷を離るる歌」に出演して魅了された。

福島大学入学（昭和29・1954年）当時、日本中を風靡した歌声運動（喫茶）の全



盛期。福島市民「どんぐりコーラス」、キャンパスでは昼休み藤棚の下で「藤棚コーラス」（主にロシア民謡など）、そして、独身教員当時は楡葉町公民館主催の青年・花嫁学級生による「こだまコーラス（木戸・竜田隔週）」に。館長は永山 力（つとむ）さん。依頼で、久保田が責任者（オルガン弾きも）。町から手当も出て、それは団の運営費に。

音楽の授業では、その経験をふんだんに取り入れた。一学期当初、校歌（へ長調）をピアノで弾く。二学期の校内合唱コンクール、〔課題曲〕学級歌（二部合唱）、〔自由曲〕合唱曲から自由に。指揮者、伴奏者、生徒たちに助けられた。最終の時間、私の提案で一人ひとりもち歌を。「先生もやんだっぺ」の声に、「北国の春」を朗々と。



そして、転任の時、生徒たち肩を組みつつ、「先生、数学より音楽の方が楽しかった」には苦笑した。



.....
（事務局より）次号は、私・柴口の原稿をお送りします。・・・ということは、いよいよ原稿がなくなっているのです。

ネコ対策

by Monster 松

